

流行性耳下腺炎とRSウイルス感染症に注意しましょう



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 1	0	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↗ 91	56	ヘルパンギーナ	↘ 26	27
咽頭結膜熱	↘ 19	29	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↗ 132	106
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗ 63	43	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 371	344	流行性角結膜炎(はやり目)	↗ 16	13
水痘	↘ 16	20	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↗ 56	41	無菌性髄膜炎	↘ 4	6
伝染性紅斑(りんご病)	↗ 6	3	マイコプラズマ肺炎	↗ 15	12
突発性発疹	↗ 54	35	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→ 1	1

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 流行性耳下腺炎
- RSウイルス感染症

大きな流行が発生又は継続しつつある地域
流行性耳下腺炎：八代、山鹿

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
1 熊本市保健所	1	26	4	21	105	7	19	3	28	0	2	13	0	13	0	3	10	0	1
2 山鹿保健所	0	2	0	0	31	0	4	0	2	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0
3 菊池保健所	0	30	3	9	58	1	5	3	5	0	2	23	0	0	0	0	1	0	0
4 阿蘇保健所	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
5 御船保健所	0	1	0	5	16	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 八代保健所	0	1	0	4	46	1	4	0	4	0	2	43	0	0	0	0	0	0	0
7 水俣保健所	0	0	1	0	2	0	1	0	3	0	2	4	0	0	0	0	3	0	0
8 人吉保健所	0	3	0	1	10	6	0	0	1	0	2	3	0	0	0	1	1	0	0
9 有明保健所	0	10	5	11	63	0	3	0	5	0	6	12	0	3	0	0	0	0	0
10 宇城保健所	0	14	2	11	30	0	9	0	2	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0
11 天草保健所	0	4	4	1	8	1	11	0	3	0	9	13	0	0	0	0	0	0	0
計	1	91	19	63	371	16	56	6	54	0	26	132	0	16	0	4	15	0	1

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	
インフルエンザ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
小児科定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	91	11	23	33	17	4	2	1	0	0	0	0	0	0	0							
咽頭結膜熱	19	0	3	6	4	4	0	0	1	1	0	0	0	0	0							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	63	0	0	2	1	7	7	15	12	5	9	2	2	0	1							
感染性胃腸炎	371	6	22	56	46	42	32	25	24	14	10	8	48	8	30							
水痘	16	0	2	1	0	2	4	3	1	2	0	1	0	0	0							
手足口病	56	2	8	22	9	4	6	2	0	1	0	0	0	0	2							
伝染性紅斑	6	0	1	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0							
突発性発疹	54	1	23	27	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
ヘルパンギーナ	26	0	6	9	7	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0							
流行性耳下腺炎	132	0	0	3	14	21	21	24	10	9	10	6	13	0	1							
眼科定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	16	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3	2	3	2	0	0	2	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
無菌性髄膜炎	4	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0					
マイコプラズマ肺炎	15	0	7	3	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					

引き続き、流行性耳下腺炎に注意しましょう

今週の流行性耳下腺炎の報告数は132件、定点あたりの報告数は増加し、依然として今年は報告数が多い状態が続いています。警報レベルが続いていた八代地域では、今週増加し、12週連続で警報レベルです。また、山鹿地域も警報レベルです。

RSウイルス感染症に注意しましょう

今週のRSウイルス感染症の報告数は再び増加に転じました。例年、秋から冬にかけて報告数が増加する傾向にあります。RSウイルス感染症は、乳児が感染する感染症で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにすべての小児が感染するといわれています。特に、生後6か月以内の乳児がRSウイルスに初めてかかった場合、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を起こすことがありますので、生後6か月以内の乳幼児は、感染しないように注意しましょう。症状は、鼻水、咳、発熱などいわゆる「かぜ」のような症状がみられ、1~2週間で軽快するといわれています。飛沫・接触感染が主な感染経路で、予防策は、流行期には赤ちゃんを人ごみに連れて行かない、症状のある家族はマスクをする、外出後の手洗いをきちんと行う、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはアルコールや塩素系の消毒剤で消毒する等です。

